

平成 30 年度 第 3 回霧島市中小零細企業振興会議（議事要旨）

開催日時	平成 31 年 2 月 6 日（金）15:30～
開催場所	霧島市役所行政庁舎別館 2-3 会議室
出席者	委員 今給黎 正己 委員、重久 真一 委員、津田和 亨 委員、植山 吉将 委員、山田まゆみ 委員、西重 保 委員、酒匂 亮一 委員、佐々木 こずえ 委員、松田 斉 委員、小川 貴弘 委員、前田 義朗 委員、大山 隆弘 委員、藤山 准一 委員、小川 陽三 委員（代理岩元栄作氏）
	事務局 池田 商工観光部長、谷口 商工振興課長、梶 主幹兼商工観光政策グループ長、山中 主任主事、宮之原 主事

会次第

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 第 2 回中小零細企業振興会議報告
 - (2) 人材確保検討部会報告
- 3 議事
 - (1) 部会検討結果を受けての協議（部会協議検討シート）
 - (2) 事業承継に関する取組について
 - (3) 平成 3 1 年度の会議内容等について
- 4 その他
- 5 閉会

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 第 2 回中小零細企業振興会議報告
 - (2) 人材確保検討部会報告（計 2 回の部会協議内容等の説明）
- 3 議事
 - (1) 部会検討結果を受けての協議（部会協議検討シート）

【要旨】

・部会において人材等に関する現状や課題、対応策等の意見をまとめた協議検討シートの内容を振興会議で確認し、新たに委員からの追加意見（主な委員意見等参照）を出してもらい、今後も引き続き必要に応じて協議し主な意見については取りまとめて報告書にまとめることも検討する。

主な委員意見等

【委員】

- ・霧島市全体で、いろいろな新人研修（例 怒られ方セミナーなど）を開催してはどうか。
- ・他社の講演や会社訪問を通じて、支援を求めるよりもまずは魅力ある会社作りが人集め（人

材確保)には必要であることを強く感じた。

- ・納期や稼働率などを考慮すると、働き方改革が迫る中、従業員を幸せにするための取り組みができるかが不安であるが、取組んでいかなければいけない。

- ・4月1日の法律改正の施行時期を控えて、取り組むべきところは取り組んでいかないと思いつながりながらも、休みは多くなり、生産性は上げないといけなことから非常に厳しい時代になってきている中でどのような取り組みをしていくかということが非常に重要になってきている。

- ・中小企業家同友会では、これまでも30~60名規模で、新入社員の合同研修を行っている。大きな会社であれば1社でできるが、中小企業ではそうはいうわけにはいかない。これらの研修は非常に大事である。組合や1つの経済団体等で霧島市の協力をもらいながら新人の合同研修をしたらいいのではないか。

- ・小学校の頃からカリキュラムの中にキャリア教育を取り入れるという話があるが、今全国的に注目されている活動が新人の先生、新卒採用の小・中・高の教員の県職員が中小企業40~50社ほどに、3~4人グループで三日間夏休みの間に研修ではなくインターンシップをさせるという、全国的に注目されている活動がある。生徒等に影響を与える教員、特に就職に関わる教員にとっては地元企業を知ることができる取組である。霧島市でも教員が企業体験できればいいのではないか。

- ・景気は非常にいいが人が集まらない。都会に出たがる。田舎に目が向かない。人材確保のために、インターンシップ以外にも、採用2~3年目の職員を母校に戻して企業紹介をさせる等の取組みもしている。

- ・会社に専門の部署を設けて社員全員が同じ方向(方針)のもと仕事をするために研修を行っている。

- ・採算内容や決算内容を全社員に報告している。そうすることで社員のやる気を引き出している。そのため社員の採算意識が強い。

- ・若い人にとって給料も大事だが休みを有意義に過ごしたいという人たちが結構いるので休み、福利厚生面を充実することにも努めている。

- ・飲食店でも時給を上げて人もなかなか集まらない。

(2) 事業承継に関する取組について

【要旨】

・事業承継に関する取組や課題等の現状や、事業者が行政や支援機関に求める支援策等についての意見(主な委員意見等参照)を出してもらい、今後協議検討シートにまとめ、引き続き協議を行う。

主な委員意見等

【委員】

- ・65歳以上の方を中心にヒアリングを行っている。半数くらいの方が後継者未定というデータがある。後継者が決まっていないう方に対して支援窓口の紹介等を勧めようとするが、そこまでは考えていないから、と断られる。もう一步踏み込んで考えてもらえない、事業承継に取組んでもらえないことが課題だと考えている。

- ・金融機関で事業承継に関するセミナーを開催するが集まらない。融資の際にも審査の基準になるので、身内や社員等で後継者はいるかは確認する。事業承継について検討しませんかと聞くが、まだいいと言われる方が多い。

- ・ 10年先の会社を示す経営ビジョンを作成、そして毎年更新し社員とともに共有する。引き継ぎたいと思う会社作りが必要。
- ・ 60歳代くらいの経営者の中には自分の代で経営理念に基づいた会社経営など、もう少ししっかりやってから引き継ぎたいという責任から、まだ事業承継は早いと考える経営者もいるのではないか。
- ・ 家族経営等の場合で、経営者である親が社員である子等に決算書を見せないという事例が多い。事業承継を考える場合、しっかりと会社の実情を知る（知らせる）必要がある。
- ・ 経営で行き詰まっている会社の素晴らしい商品やサービス、機械、ノウハウなどをM&Aで引き継いでくれる経営者が増えれば、街は活性化するのではないか。
- ・ 事業承継セミナーを開催すると、その硬い内容から事業者が構えたり、まだ早いと考えてしまう。テーマをやわらかくするなど、いろいろな角度からセミナー内容を検討し参加を促すことが必要である。また事業承継を成功させるには引き継ぐ側と引き継がせる側と一緒に考える必要がある。
- ・ 税制など事業承継の制度等についてをセミナーで知りたいのではなく、まずは何から考えたり、行ったりすればよいかを知るためのものを求めており、入り口の部分で悩んでいる方も多い。

(3) 平成31年度の会議内容等について

【要旨】

平成31年度の振興会議内容は以下の通り。

- ・ 提言書 取組状況の事務局報告に対する評価検討
- ・ 平成30年度商工振興関係施策実績及び平成31年度取組に対する評価検討
- ・ 部会の新たな検討テーマの決定及び検討結果を受けての協議
(人材確保検討部会の継続協議及びとりまとめ)
- ・ 第2期振興会議報告書作成

新たな専門部会の内容のテーマについて意見が出なかったため、次回の振興会議で意見を伺うこととする。

主な委員意見等

- ・ 特になし

4 その他

【要旨】

- ・ 次回の振興会議は、4月から5月に開催予定。事前に日程確認をさせていただく。

5 閉会